

第 56 回建築士会全国大会しまね大会紹介

7) 島根のまちなみ 2 大社町

当然のことながら、大社町は出雲大社の門前町として栄えてきました。他の有力神社と同様に御師（オシ）と呼ばれる使者が全国に散らばり、御札を売り、大社の宣伝をして人々をお参りに誘ってきました。今も、方位が悪い家などは大社でお札などの一式を頂き、それを地鎮の際に埋めて出雲屋敷と称しています。出雲大社の創生は 2000



真名井の通り

年も前と紹介されています。記紀が出来たのは 1300 年前、神話の神々もその時に造られたとしたら、その前は一体何を祀っていた



日本一の大鳥居



酒屋

のか。いつも疑問に思うの

ですが、なんとなく聞くことがはばかれます。

大社のまちなみも歩いていると楽しい町並みや風景に出会うことができます。さすがに近世建築は少ないので



竹野屋(竹内まりや)



奥医院の門

ですが、近代から現代まで、門前町らしいたたずまいを持ったまち並みです。特に真名井の通りはその名の通り湧水があるのですが、社



町屋



宮司宅の土堀

家(シャケ)と呼ばれる大社に縁の深い家が並ぶ近世来の

通りです。実は先の南海地震では大社はかなりの被害に遭っています。断層が連動したとか言われています。出雲大社の 60 年遷宮も実は掘っ立て柱故に 60 年でだいたい腐って倒れたとか、遠くの地震に同調して倒れたとかいろいろ言われています。必ずしも 60 年ごとに修繕されたとか建て直されるとかいうわけではありません。大社の近代建築は、別に紹介します。